

一職住共存シンポジウムー
都心・交流・まちづくり

《開催結果まとめ》

平成13年 7 月

京都市都市づくり推進課

【目次】

1. 開催趣旨と開催概要.....	1
(1) 開催趣旨.....	1
(2) 開催概要.....	1
2. シンポジウム概要	2
(1) 開会挨拶及び趣旨説明	2
(2) 基調報告.....	3
(3) パネルディスカッション	12
3. 参加者からの質問	26
4. 参加者アンケート結果	28
(1) 調査概要.....	28
(2) 回答者概要.....	28
(3) シンポジウムの感想.....	31
(4) 今後取り組みたい事項、深めたいテーマ	33

1. 開催趣旨と開催概要

(1) 開催趣旨

都心部では、元小学校区を単位に、様々なコミュニティ活動が行われてきています。さらに、近年、地域に根ざしたまちづくりの取組みが広がりつつあり、住民が主体となって考えるまちづくり委員会の活動や、通りを中心としたまちづくりの活動が活発化しています。

京都市においても、職住共存地区（都心部幹線街路に囲まれた内側の地区）を対象として、平成10年4月に「職住共存地区整備ガイドプラン」を策定・発表し、これまで地区計画策定に向けた取組みを地域の皆さんとともに進めてまいりました。

そこで、今回のシンポジウムでは、本市で第1号となる修徳学区での地域協働型地区計画や都心部のまちづくりの取組みを地域住民の皆さんからご報告いただくとともに、地域におけるマンションとの共存についても議論を深めます。

(2) 開催概要

開催日時：平成13年6月28日（木）19:00～21:00

開催会場：元京都市立龍池小学校講堂

開催内容：①開会挨拶及び趣旨説明

②基調報告

「交流・うるおいの地区計画」

修徳まちづくり委員会委員長 平井常夫氏

「住みたい・育てたい・働きたいまちを目指して」

本能まちづくり委員会委員長 西嶋直和氏

「地域からの情報発信」

格致自治連合会副会長 中井敏男氏

②パネルディスカッション「地域とマンションとの共存に向けて」

（パネラー）

明倫まちづくり委員会委員長 井上成哉氏

本能まちづくり委員会 荻谷謹子氏

豊園自治連合会総務理事 柴 佳伸氏

京滋マンション管理対策協議会事務局長 谷垣千秋氏

格致自治連合会総務委員会 田原大仁氏

有隣自治連合会会長 西村正美氏

（コーディネーター）

立命館大学助教授

リム・ボン氏

参加人数：約180名

2. シンポジウム概要

(1) 開会挨拶及び趣旨説明

現在、都心幹線道路の内側の区域、通常私どもは田の字のあんこの部分と言っておりますが、そこを職住共存地区と位置付け、平成 10 年 4 月に職住共存地区整備ガイドプランを策定し、地域住民の皆さんと共同で取り組みを進めております。具体的には地域協働型地区計画の策定といった取り組みを進めております。都心部の各地域におきましては、住民の皆さんが主体となってまちづくりが活発になってきました。私どもはこのまちづくりを側面から支援するため、色々な支援制度を持っております。本日のシンポジウムでは、前半に地域でのまちづくりの取り組みを、地域でまちづくりを行っておられる皆さんからご紹介をいただくことになっております。

さて、お手元の資料集に書いておりますが、職住共存地区の人口世帯数の推移については、昭和 53 年以来人口は減少を続けてきましたが、昨年の国勢調査では増加に転じております。また、世帯数ではほぼ横ばいに推移していましたが、前回の国勢調査では人口が最多であった昭和 35 年を上回る世帯数の増加となっております。これらはマンション等の立地がその要因にあると思われます。マンション問題は地域のまちづくりにとっても、住民の皆さんにとっても大きな課題となっております。本日後半のパネルディスカッションでは、パネラーの皆さんから様々な取り組みをご紹介いただき、地域におけるマンションとの共存について深めてまいりたいと考えております。

次に、地域協働型地区計画の説明を致しますが、資料集の一番最後に地域協働型地区計画についての資料がのっておりますので、簡単に説明させていただきます。地域協働型地区計画は、すでに皆さんが取り組まれているところもありますのでご存知だと思いますが、地域住民が主体となって新と旧が調和したまちづくりを実現するために、身近な生活環境の課題に取り組むために作られた地区計画制度の積極的な活用を図るものです。現在第一段階としては、地域コミュニティの単位である元学区ごとに、いくつかの元学区においては地域の皆さんとともに取り組みを進めて参っているところです。

基調報告では本市で第一号となりました修徳学区の取り組みをお話いただきますが、その際に今の資料を添えていただければ結構だと思います。なお本日は資料にもございますように盛り沢山の内容となっておりますが、最後までよろしくご協力のほどお願いいたします。これにて開会のあいさつと本シンポジウムの趣旨説明を終わらせていただきます。なおここは旧の学校ですのでクーラーがございませんが、まちづくりは汗を流していくというのが私は本分だと思っておりますので、シンポジウムの間何卒ご協力をお願いいたします。

(2) 基調報告

「交流・うるおいの地区計画」

修徳まちづくり委員会 委員長 平井常夫氏

ただ今ご紹介を頂きました修徳まちづくり委員会の平井です。何せ 10 分ということですので、ひとつ早く申し上げたいと思います。

まずは「地区の計画」というように言われておりますが、極めてこれは難しい表現でして、私どもの学区では「まちづくり目標の計画」というように呼んでおります。どうしてこういう計画が必要になったか、ということをまず最初に申し上げたいと思います。そして次に、これをどのような経緯で策定していったかというプロセスをお話をさせていただきたいと思います。これについては私どもの学区の 90%近い学区民の賛成を得て成立したわけです。その内容につきましては参考資料の 9 ページから 15 ページに載っておりますので、概要についてはこれをお読み頂きましてご理解を賜りたいと思います。

ちなみに、町内会においてマンションが建設されるということで、これは困ったと地区計画を策定されたというのは、これまでで 2、3 件あるようですが、複数の町内からなる学区でこの地区計画が作成され、市の審議会で承認をされたというのは京都市では修徳が初めてということですので、私の出番が回ってきたのではないかと考えております。

ご存知の通り修徳は南は五条通、北は松原通、西は西洞院通、東は東洞院通という横に細長い学区です。南には五条通、1 号線が走っておりますし、東のほうには烏丸通という広い幹線道路が走っております。町内会は 21 町内ございまして、世帯数は 1,100 世帯、人口は 2,140 人、この前の平成 12 年の国勢調査による数字です。

修徳は日本で一番早く、地域の篤志家の寄付によりまして創設されました小学校です。大体区内は呉服卸売商、繊維製品の卸売商、そして西本願寺、東本願寺がございまして仏具屋さん、組紐屋さん、畳屋さんといったお商売が大変多い学区です。そして職と住が共存した地域であります。

まずこの地区の計画がどうして必要になったかということですが、今、回覧式に防災マップというのをお回しさせて頂いておりますが、それは一度作ればよいというものではございませんで、町内で変更してまいりますので、毎年変更した情報を本部に頂いて修正しておる訳ですが、これがものすごい変更なんです。いわゆる、空家が出来る、そうすると壊される、今流行の 100 円駐車場になる、あるいは少し大きな家ですと必ずマンションになるということで、そして倒産等によりましても本当に建物がどんどんと壊されている。ところが壊されるのは良いのですが、一体誰の所有で何になるのかというのがお隣同士でも全く分からない状態なんです。その防災マップを修正しようにも報告の仕様がいないということをおっしゃる訳です。そういうことで今、色々

な問題が言われていますが、伝統的な町家、あるいは町内の共同意識といったものがどんどん薄れてまいります。隣は一体どんな人なのかといった状態では、絶対に地区に住む愛着や誇り、あるいは助け合い、そういったものがどんどんと無くなっていく、これはえらいことだということで、今回の地区計画を策定しようじゃないかということになった次第です。

ではどういうプロセスを通じて策定されたかということです。それには私どもの学区では4つの要因があったと思います。その1つと申しますのは平成7年に発生いたしました阪神・淡路大震災です。私は丁度あるボランティア団体に所属していて、長田区の方にボランティアに参りまして、小さな公園でしたがテントに避難されておられる方と色々話し合いをしました。そして町内会と言いますか横の繋がりというのは大事ななとつくづく思っただけで帰ってまいりまして、町内会長さんに集まって頂いて神戸の事情をお話して、京都も何時そういった地震が起こるか分からない、そういった場合の為に防災マップを作ろうではないかとお話しましたら、全員にそれは良いことだと賛成を頂きました。そしてそれに取りかかりました。

ところがこれを作るためには、町内の代表の方は自分のご町内の一軒一軒を訪問して、地図をまず書いてもらわなくてはなりません。そうした中で、例えば独居老人の家なのか、あるいはお年寄りのみでお住まいの家なのか、あるいは体が不自由な方々がいらっしゃるのか、そういったことをプライバシーに差し障りのない程度で調べていただき、そして防災マップが出来上がったわけです。今思いますと、そうして一軒一軒回られた時にすでにまちづくりが始まっていたというように思います。

もう1つは、私どもの修徳小学校が取り壊されまして、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、下京図書館、児童館、4階が非常に立派な地域ホール、それがもうすでに完成しております。それと前の小学校のグラウンドがございます。かなり小さくなりましたが、それを修徳公園ということで、今もう7割8割完成しておりますが、来月の15日に竣工式の予定を致しております。

問題はその公園をどのような公園にするのかということで、町内会あるいは隣地、隣接、階層別、子育てのお母さん方、そして高齢者、各種団体などで十数回に渡りまして夜に会合を持たせて頂いて、どんな公園にしようということで色々話し合いをした訳です。従って今完成しつつある公園に対しては、この公園は私たちが考えて作り上げた私たちの公園であると学区民の方々は非常に誇りを持っていらっしゃいます。例えば30m掘って非常に綺麗な水が出てまいります。その水を流しまして、公園というよりは日本庭園とも言えるような素晴らしい公園が出来ております。今、源氏蛸を育成するように色々勉強して頂いております。

3つめは修徳まちづくりという資料にもありますように広報誌を出しまして、そういった会合には出られないけれども紙面を見て公園作りに参加する、というように学区民の皆さん全員に何らかの形で参加していただいたということです。

終わりに、こういった皆さんの思いをまとめるためにはアンケートを実施しなくては

ならないということで、第1回目は小学校が統合されて即、跡地建設委員会を立ち上げて、これから修徳はどういう方向に進んでいけばよいだろうかというテーマを作りました。すなわち「社会教育プラザ、花と緑、健康と福祉の学区修徳」というふうに名付けました。2番目には私たちの「まちに対する想い」ということでアンケートを実施いたしました。3番目には今回の地区計画の策定及び今後のまちづくりということで、計3回に渡ってアンケートを実施して、まちづくりの実用性を学区民の方々に認識をしていただいたということです。これらの一連の動きの集大成がこの度の修徳学区地区計画であろうと思っております。

今後の概要と致しましては、住民が中心となって建物の高さや規模の内容を検討して、地区整備計画という内容にまで持っていきたい。整備計画というのはかなり法的な制約も出来るそうです。この整備計画に持って行って初めてこの度の地区計画が生かされるのではないかと考えております。

こういう時ですからまだマンションがどんどん建ってまいります。これはどうしようもない訳です。マンションが建設される前に建設業者に対しまして、この周辺はこういう町並だと理解していただく。また業者の方に対しましてももっと地元との話合いの結果を重視して、そして円満解決が出来たら建設許可を下ろすという条件にでももらいたいと行政に働きかけていきたいと思っております。そして双方が合意出来たら、マンションを縦に見ずに横に見る考え方、新しい皆さんと一緒にやっという相互理解の精神が大切ではないだろうかと思っております。

まとめと致しまして、「まち」という形を作ることよりも「人」という心作りが誠のまちづくりであると感じた次第です。以上をもちまして基調報告と致します。ありがとうございました。



「住みたい・育てたい・働きたいまちを目指して」

本能まちづくり委員会委員長 西嶋 直和氏

本能まちづくり委員会の西嶋です。暑い中ご苦労様です。少しの間私ども委員会の活動を報告させていただきます。

私たち本能まちづくり委員会は、平成 11 年 12 月 1 日に設立させていただきました。色々と準備委員会等で話し合いを進めてまいりました。和装産業の衰退に伴いまして職人さんが減り、また昔からのお店が減っていったにも関わらずマンションが増え、ガレージが沢山増えてきた。まちの様子も様変わりをしてきたということで、ではどうしていけばいいのか。しかし我々は本能学区が好きで、まだまだこれからも住み続けていきたいといった想いが皆さんにあります。また我々の地区は和装産業の中でも染めの文化、染めに携わる職人さんが多く居られる町であります。その染めの文化によって築きあげられた色々な資源がございます。そういった資源をもう一度我々が再発見し、今後の 21 世紀に何とかつなげていくことが出来ないだろうかということで、自治連合会の、よその学区の方も多分同じだと思いますけど、連合会の組織と申しましたらと町内会と各種団体で構成されていると思いますけど、その自治連合会の中の委員会として設立させていただきました。ですからお手元の資料の中に本能ニュースも入っておりますが、そういったニュースも各町内会を通じて各ご家庭にお配りさせて頂いております。我々委員のメンバーは 30 名ほどですが、色々と協議をし、色々と活動させてもらったことを速やかに各町内にお知らせさせて頂いております。

その中で、1 年半ほどなのですが、部会を設けるようになってまいりました。まちなみ部会、交流促進部会、という 2 つの部会を設けていただいております。まちなみ部会では再発見、色々な地域を見て歩いて色々な資源をもう一度再確認していこうといったことをやっております。また前回のニュースでは、我々の地域で改築なり増築をされるお宅がありましたら、我々委員のメンバーの中に建築の専門職の方もおられますので、京都に相應しい、また本能学区に相應しいような町並みを少しでも残していくためにどうしていったらいいかということと一緒に話し合いをしようという場も出ております。

また促進部会では、先ほど修徳さんも防災マップをお出しになったようですが、我々も、新しく我々の地域に来られた方々に地域の中だけでなく色々な公共機関をお知らせする便利マップを作りました。何とか新しく来られた方々と我々旧住民とが接点を持っていきたいなと色々活動しております。

その中で昨年、今までは体育振興会が中心となっていた夏祭りで、我々委員会も何とかその中で協力して、子ども達だけではなく新しく来られた方々も一緒に入ってきて頂いて、一緒に本能学区の雰囲気を感じてもらい、活動に参加してもらえきっかけになればいいのではないかとということで、地域の人達が楽しく集まれる

場、また大人も子どもも共に楽しめる場作りをやらせていただいた。その夏祭りとい
いますのは、どこのご町内も子どもの数が減ってきてなかなか町内単位で色々な子
どもたちが喜ぶ行事をしていくというのが難しい時代になってきて、それなら体育振興
会が夜店を出して、地域の子どもたち皆に夕方になったら学校に来てもらってお好み
焼きを食べたり、カキ氷を食べたりして一緒に遊ぼうじゃないか、といったことで十
数年前からやっていたいただいているものですが、今年は自治連合会の主催ということに
なりまして、まちづくり委員会の副委員長が実行委員長になりまして、より多くの方々
のご協力を得て盛大にやっこと準備を進めている次第です。

それと昨年ですが、委員会の活動の中で 11 月、京都市が全国の 20 都市の中で指定
を受けました「歩いて暮らせる街づくり」という中で、11 月 17,18,19 日の3日間
の「まちなかを歩く日」の中で、我々本能学区で何か特色を出して皆さんに喜んでも
らえるように考えようということで、「おいでやす染めのまち本能」として学校の講堂
をお借りして実演コーナーを設けたり、また業界の団体の方々が家紋をお配りをし、
また明倫学区の吉田先生に江戸時代の小袖、草履など十数点お借りすることが出来ま
して、作法室で展示をさせていただきました。同じ染めの町ならうちも染めの町だ
ということで、城巽学区の連合会長さんがひとつうちも協力したいと、小旗を我々が作
ったのですが、その小旗を城巽学区の方々も協力していただきまして、城巽学区、本
能学区と一緒に小旗を飾りました。また龍池学区の方々には、吉田先生からお借りし
たものは何かあれば困るようなものですので、その管理をお願いいたしました。4学
区が協力し合って出来たのではないかなと思っております。また今年も「まちなかを
歩く日」を設定されたそうですが、より4学区が繋がりを深くして一緒にやっってい
けるようなことを考えていきたいと思っております。

それでは私たちまちづくり委員会と致しましては、どのように今後進めていったらよ
いかと申しますと、「住みたい町、育てたい町、働きたい町本能」ということを目指し
まして、色々今、活動させて頂いております。また修徳さんがされました地区計画
というものも昨年度より進めております。その中で今現在、まちづくりアンケート調
査を各ご家庭にお願いして、その取りまとめ作業をしております。またもう1つはマ
ンションの実態調査を、我々委員が各ご町内のマンションの方をお願いしまして調査
させていただきました。まだ中間報告になるわけですが、少し私がそのマンションの
問題で感じた点をご報告させていただきたいと思っております。

中京下京に関わらずどこの学区も同じだと思うのですが、我々の地域も昨年まで自治
連合会の把握しているところによりますと、一戸建が640 所帯、マンションがワンル
ームもファミリーも含めて 900 所帯、合計 1540 所帯というのが去年の段階であっ
たわけです。このマンション調査を進めてまいりまして、ワンルーム・ファミリーを
含め、マンションの棟数というのが 56 軒ありました。まだまだこれから増えていく予
定となっておりますけど、その中で戸数としましては 1,332 所帯お世話になっており
ます。我々が調査しました中、自治連合会の把握している中においても、ほぼ 50%増

しの数字がマンションの戸数としてあがってきております。この中でこの5年間、震災以後ということになると思いますけど、マンション 56 軒のうち 30%がこの5年の間に建っております。その中で世帯を考えてみますと、この5年間に 55%世帯が増えています。また世帯だけを見ますと、この1年半ほどで 36.8%世帯が増えている訳です。またファミリーとワンルームの割合、5年前まではワンルームの割合が多かったのですが、ここ1、2年におきましてファミリーの割合が 50%に達してきておるのが現状なんです。ですからファミリーということは、そこに根付いてお住まいになるといったお気持ちで来られている方が沢山居られるわけですから、その方々と我々とが今後どう地域活動をしていくか、また地域に溶け込んでもらうかということまちづくり委員会でも協議していき、また自治会でも考えていくべきではないかなと思っています。

その中で一番の問題点は何かと言いますと、やはりお住まいになられて、自治連合会と直接つながるということは考えられない。やはりまず近所付き合いがあって、町内会があって、はじめて自治連合会があるのではなかろうかと思います。そのためにはやはり近所付き合いをして頂いて、また町内会も町内会費だけをもらうのではなく、色々な行事に参加してもらい、また色々な意見を出してもらえるような町内会になっていてもらいたいなと思っています。我々委員会また自治連合会としましては、そういった町内会に対して、今後マンションにお住まいの方々、新しく来られた方々とどうより良い地域づくりをするために活動していったらよいかということを、町内会と一緒に考えていくべきではないかなと思っています。

最後になりましたが、まちづくりの活動は終着駅のない活動だと思っています。どこまで行ってもより良いものを求めて活動していくのではないかなと思っていますし、結果を求めるのではなくて、そのプロセスを大切に今後も活動していきたいと思っています。どうか今後とも色々なご意見がございましたら、我々も参考とさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。



「地域からの情報発信」

格致自治連合会 副会長 中井 敏男氏

今日は格致自治連合会の副会長ということですが、それとは別に私は昨年町内の役員会をしておりまして、私の町内は小さな町内で戸数 20 戸、そこに今年中に 2 軒のマンションが出来まして、100 世帯入居されるということで、去年 1 年間に役員として右往左往したことを申し上げる予定ですが、その前に格致学区の特色を申し上げたいと思います。

格致学区は昔から本能学区同様に染物の町と言われておりました。私の家の前の通りは醒ヶ井通と言いまして昔の醒ヶ井の井戸がありまして、また化粧水という名水があったそうで現在石碑が建っております。非常に恵まれた染色に適した地下水が流れておりまして、学区内の半数以上が和装関連産業のお宅で、典型的な職と住の町でございまして、仕事と日常生活が密着しております。

やはり昔から一番協力的なのは向かい 3 軒両隣で、お互い様の精神がずっと培われてきたのでありますが、町内に大きなマンションが出来ますとお互い様とは言い難くて、非常に町内の人々は迷惑しています。

うちの自治連合会も活発な活動をしておりまして、格致小学校の P T A の役員さんが卒業されますと、ほとんど自治連合会の各団体の会長や団体長になられまして、非常に縦と横のつながりの多い団体でございまして、主な団体が約 20 団体ございますが、そのうちの 15 団体が P T A の役員さんが団体長をされておりました、非常に地域社会に密着して、地域社会に持つ共通力というのは非常に高くでございます。体育振興会におきまして、私も昔担当しておりましたが、未だにこちらからも挨拶しますし、向こうからもこんにちはと言ってくれます。

色々と活動を活発にしておりますが、丁度 10 年前になりますけれども、小学校が統廃合されて通学地域が大きくなりますと、人の顔が見えにくくなると申しますか、我々が掌握しにくい状態になりまして、各団体でも若い人の発掘が非常にし難いというのが現在のうちの学区の特徴であります。しかしふれあい事業をみましても連合会で約 120 名が集まっておりますし、また夏祭りを 8 月の最終日曜日に考えております。冬のとんどなど色々と活発に行っております。

この格致学区も約 50 年の間に平成 3 年で 1000 世帯になりましたが、現在 1600 世帯、先ほど申し上げましたようにマンションが出来てまいります。特に和装産業の衰退などで商売を廃業されますと、すぐに地上げされてあつという間に大きなマンションが建ちまして、それで人口が増えてきた次第です。

私の町内では昨年度、急に和装やさんが廃業されまして、その跡地と、多分相続税の関係で酒屋さんの土地に 2 軒のマンションが出来るということで右往左往しましたが、いくら町内でマンション業者に申しまして一切基本計画を変えない。マンションの話し合いもしましたが、きちんと法律に則ってやっているといった返事ばかりで、例え

ば 3.8mしかない醒ヶ井通に 43mの 14 階建てが 30cm の幅をおいて真っ直ぐ立ち上がるんです。どう考えても 3.8mの道路に何故 43mかと思うのですが、それが堀川通りにも面しておりまして、堀川の基準で建てますと醒ヶ井通にも 43mの真四角なビルが建つ訳です。

町内と致しましても、ベランダから物が落ちた場合にマンションの敷地内に落ちるようにセットバックして欲しいと何度も申し入れましたが全く聞き入れてもらえず、最終的には 180cm あったベランダを 10cm 下げましょう、ということで終いです。そんな風にやっていると、町内の人とマンション業者が非常に陰湿な関係になる訳です。町内の方がマンション反対と言ってもマンションは建ってしまう。そうなりますとマンションに入ってくる住民の方に対しても感情が悪くなって、非常に困ったことだと。我々の町内も高齢化してきまして、後 10 年後、20 年後には高齢化社会となります。そうするとマンション住民を町内に取り入れて、将来的に町内の発展につなげていきたいということで、町内会長さんと何とかして町内を説得して、マンション住民を町内に取り入れようと、昨年は右往左往致しておりまして、マンションの入居者も一緒だということで説得いたしまして、皆さんのお手元にございます協定書の締結までこぎつけた次第です。

その後、マンションに來られる方にどう我々の学区や町内の情報を伝えるかということが問題となっておりまして、従来ですと我々の学区、町内では大概回覧版やポスターで情報を発信しているのですが、最近住民の住み方のバリエーションが増えてまいりまして、従来の方法では無理ではないかということで、情報の改革の必要があると色々考えまして、ホームページを最近作成いたしました。これはうちの後援委員会がやりだしまして、格物致知、これは格致の町の由来ですが、というホームページを立ち上げました。まだまだ浸透しておりませんが、マンションの販売会社にもこのことを伝えまして、出来るだけマンションに入られる方に見ていただけるようお願いいたしました。最近大分アクセスが増えてきまして、今日現在で約 900 近くになっていると思います。これで若い人に対しても我々の地域社会を良く知ってもらいたいということで作った訳です。郷に入れば郷に従えと言いますが、やはり郷に入りやすい体制作りが必要で、町内を説得して我々の地域社会はいい学区、いい地域だということを広報してもらいました。

どのような方が入ってこられるか分かりませんが、町内会として 10 対 100 では町内の運営はとても出来ませんので、当然町規約の改正もございました。また入居者とのようにして関わりを持つか、例えばマンションが出来るときに町内に報奨金をもらいましたので、それを一部残しておきまして、2 軒のマンションの住民が入居された時に歓迎会をしようかということになりました。もちろん町内で使おうという意見もありましたが、無理をお願いしましてウェルカムパーティーを計画しております。

各町内のマンション問題はやはりその町内で解決してもらおうのが筋でございまして、連合会が町内のマンションに対して口出しも出来ませんし、うちの学区も 21 町ござい

ますが、町内会長が毎年変われますと、非常に熱心な町会長さんやそうでない町会長さんがいらしてマンションに対する対応が変わってまいりますので、うちの町内の事例が成功しましたらこれを今後の事業指針として連合会に示して、格致学区の繁栄を進めていきたいなと思って現在町内で取り組んでいる訳です。

始めにも言いましたように、20 所帯の古い町内に 100 所帯が入ってくることになった時はまるで異民族が来るみたいだと思いましたが、どう反対してもどうにもならないということで、何とか 20 世帯がまとまって新しい町内会を作っていこうということです。またこれが成功しましたらホームページにアップしますので、見て頂けますようによろしくお願い申し上げて終わらせていただきます。

